

3.3 その他の都市計画対象道路事業に係る事項

3.3.1 都市計画対象道路事業の経緯

中九州横断道路は、大分市と熊本市を結ぶとともに東九州自動車道に接続し広域的な道路ネットワークを形成する重要な路線であり、自治体の各種計画でも産業・観光・防災等における機能強化を図る重要な路線であると位置付けられています。また、大分県の「九州の東の玄関口としての拠点化戦略」では、港と高規格道路をつなぐ「ハブ&スポーク」の重要性が謳われており、熊本方面との広域移動を支える重要な幹線道路と位置付けられています。

本事業の対象区間は、中九州横断道路の一部を構成し、起点側である東九州自動車道との接続区間である、大分県内のうち唯一の未事業化区間です。

中九州横断道路（大分～犬飼）の事業実施に関し、その実施過程の透明性について一層の向上を図ることを目的として、事業予定者（概略計画の検討を実施した主体）が令和3年度から計画段階評価の手続きを実施しており、「社会資本整備審議会 道路分科会 九州地方小委員会（以下、九州地方小委員会）」を3回実施しました。

第1回九州地方小委員会では、地域の現状と課題や将来像を踏まえ、政策目標（案）の設定や地域の意見聴取方法（案）を議論しました。

第2回九州地方小委員会では、地域から聴取した意見内容を踏まえ、5つの政策目標を設定し、これらの目標を達成するための対策案を検討しました。対策案の検討にあたっては、災害時に機能する信頼性の高いネットワークを構築するとともに、速達性・定時性・安全性・走行性の向上を図り、産業活動や生活利便性の向上、救急医療活動、観光振興の支援を目指すことを基本コンセプトとし、評価項目の設定、比較評価、地域の意見聴取方法（案）について議論しました。

第3回九州地方小委員会では、地域等の意見を踏まえ、総合的な観点から複数案の比較評価を行い、対応方針（案）について議論しました。

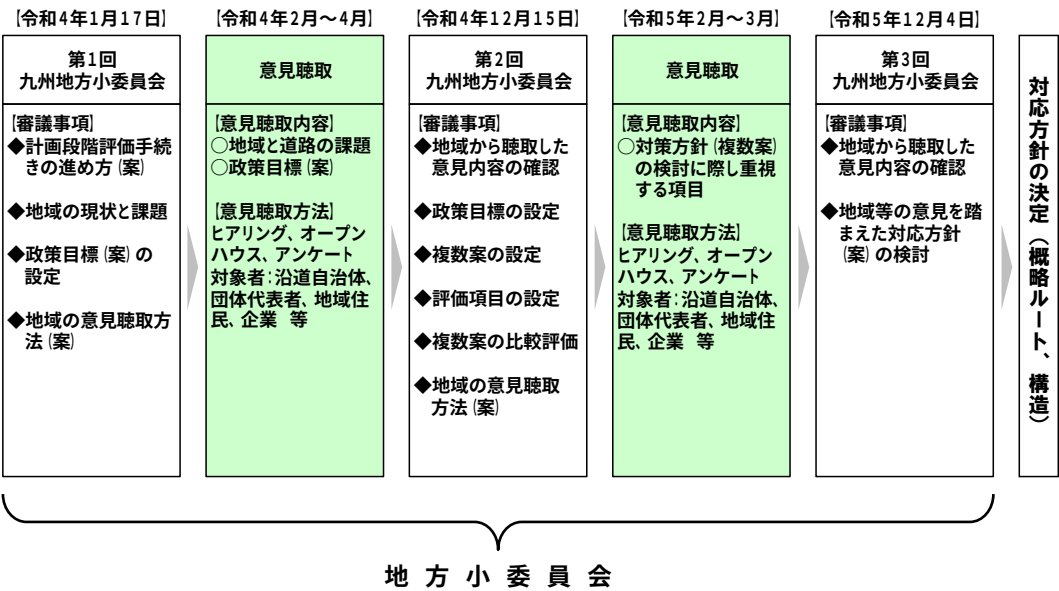
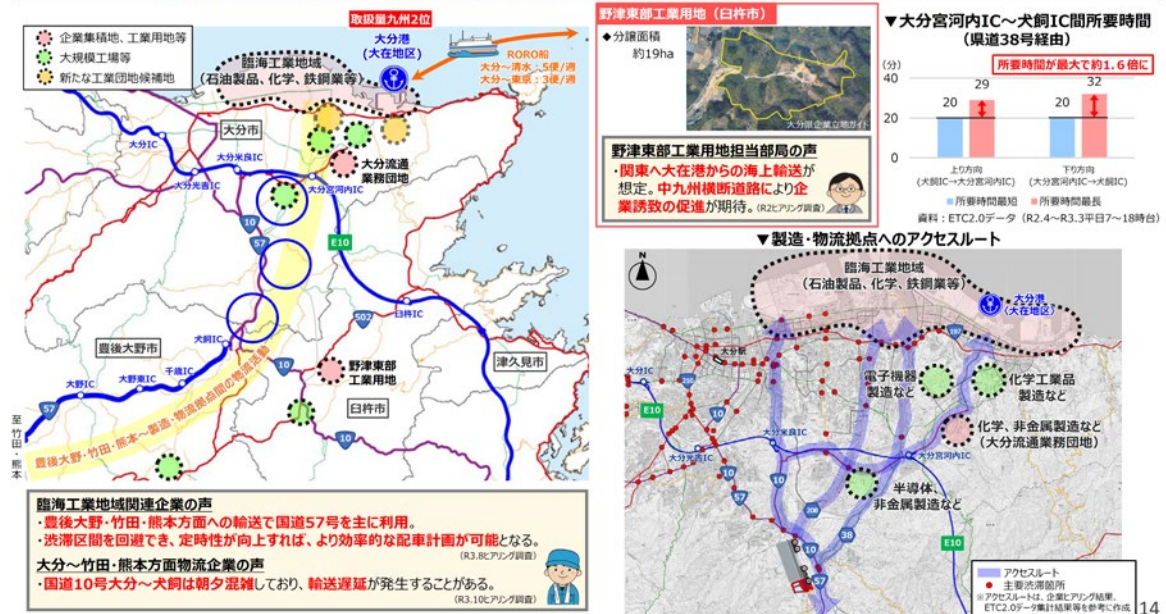


図 3.3-1 地方小委員会における審議経過

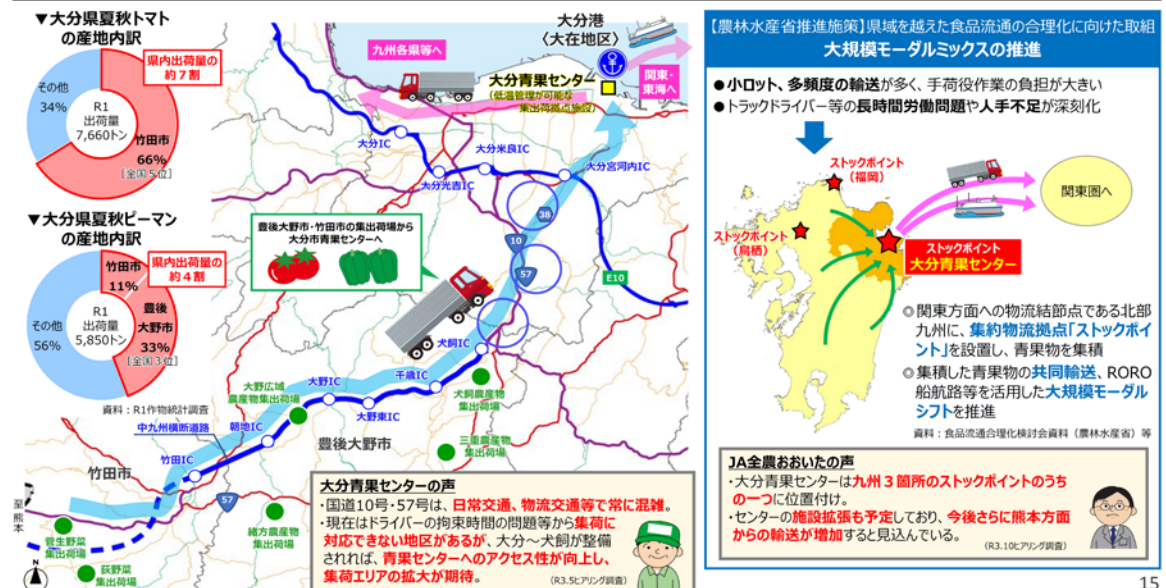
地域の現状と課題＜産業・物流：製造業＞

- 大分港(大分地区)や沿道自治体には製造・物流の拠点が立地し、新たな工業団地の造成に向けた検討が進んでいる。
- 国道10号・57号が製造・物流拠点や港湾施設から熊本方面への物流を担うが、主要渋滞箇所を通過せざるを得ない状況であり、速達性・定時性、アクセス性の向上が課題。



地域の現状と課題＜産業・物流：農産物＞

- 農林水産省等では、農産物の共同輸送や航路を活用したモーダルミックスを推進しており、大分青果センターは九州内の3つの集約物流拠点の中の1つに位置付け。今後さらに県内外からの農産物の集積が増加の見込み。
- 国道10号・57号は、県の戦略品目であるピーマン、トモの主要産地である豊後大野市・竹田市や熊本方面からセンター、大分地区への輸送を担っており、今後の需要増加も見据え、速達性・定時性、アクセス性の向上が課題。



出典：第1回九州地方小委員会資料

図 3.3-2(1) 計画段階評価における地域の道路交通の現状と課題の整理状況

地域の現状と課題＜防災＞

- 国道57号(中九州横断道路)は、南海トラフ地震時における熊本方面からの広域移動ルートに位置付け。
- 一方で、国道10号・57号は、大野川水系の洪水浸水想定区域内に位置し、路面冠水等による通行止めが発生。
- 安定的な物流活動の維持や災害時の救援・救助の支援のため、信頼性の高い道路ネットワークの構築が課題。



地域の現状と課題＜暮らし：交通流動・渋滞＞

- 大分市中心部・臨海部～豊肥方面を結ぶ幹線道路は国道10号・57号のみであり、当該区間では臨海工業地域へ向かう物流交通と市中心部へ向かう生活交通が混在。
- 国道10号中村交差点等では臨海工業地域等への物流交通に起因する渋滞が発生。
- 県道208号は慢性的な交通混雑が発生し、県道38号は大型車混入率が高い。

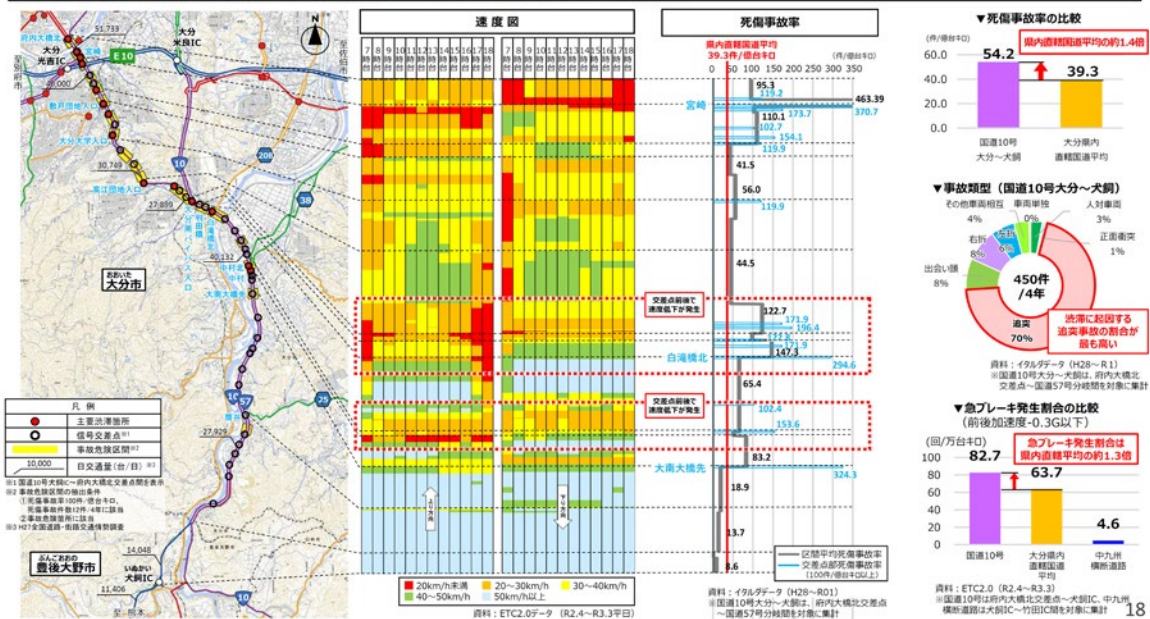


出典：第1回九州地方小委員会資料

図 3.3-2(2) 計画段階評価における地域の道路交通の現状と課題の整理状況

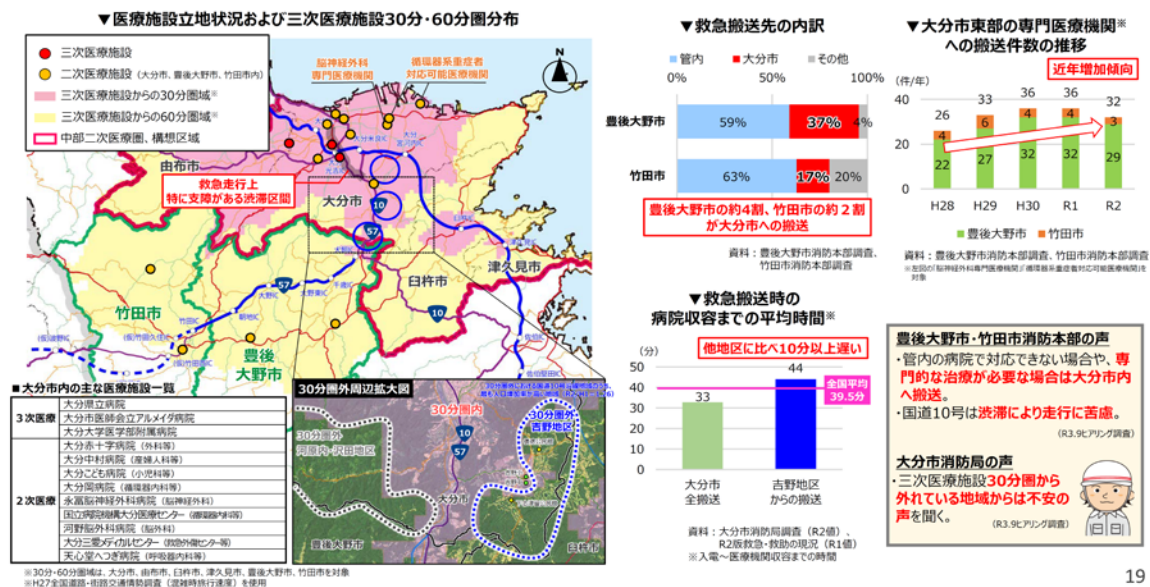
地域の現状と課題＜暮らし：渋滞・事故＞

- 国道10号大分～犬飼間は交差点前後で20km/hを下回る速度低下が発生し、速達性・定時性の向上が課題。
- 国道10号大分～犬飼間の死傷事故率は県内直轄国道平均値の1.4倍と高く、渋滞に起因すると想定される追突事故が7割発生していることから、安全性や走行性の向上が課題。



地域の現状と課題＜暮らし：医療＞

- 竹田市、豊後大野市では、医療機能を大分市に依存しており、管内の医療施設で対応困難な場合や、専門的な治療が必要な場合等は、大分市内の医療施設への搬送が必要。
- 大分市内の国道10号・57号の沿道の一部で三次医療施設の30分圏域外があり、地域からは不安の声がある。
- 渋滞区間の回避等による医療施設への速達性・走行性の向上が課題。

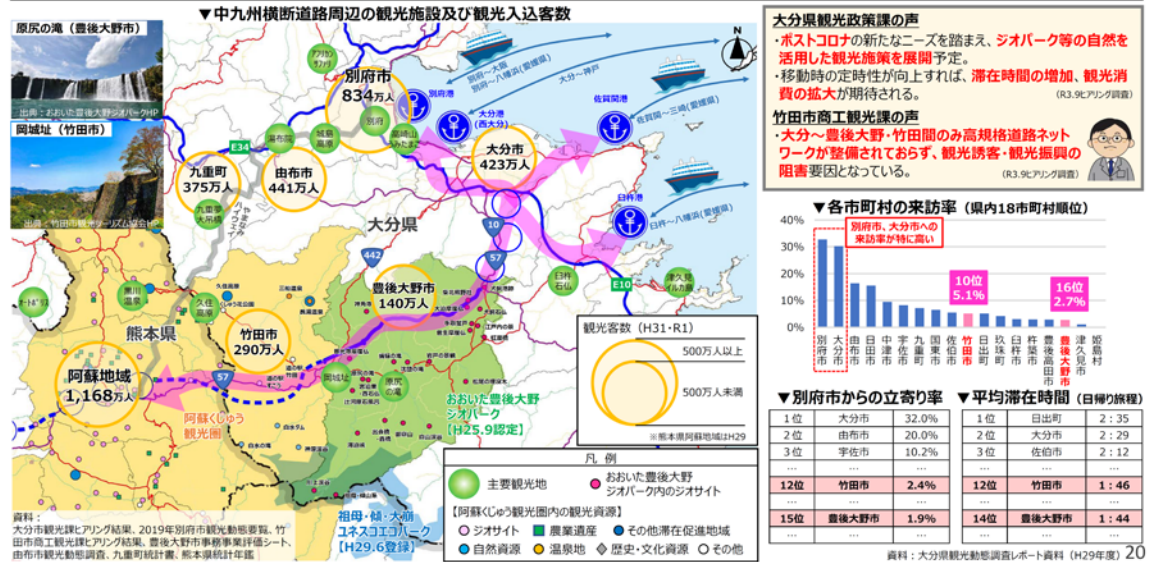


出典：第1回九州地方小委員会資料

図 3.3-2(3) 計画段階評価における地域の道路交通の現状と課題の整理状況

地域の現状と課題＜観光＞

- 豊後大野市、竹田市の一部は平成29年度にユネスコエコパークに登録される等、**県内には多様な観光拠点、観光資源が立地**しており、これらを活かした観光誘客を推進。
- 竹田市、豊後大野市は**来訪率や他市からの立寄り率が県内でも低く、滞在時間も下位**に位置。
- 別府市・大分市からの回遊を促すための高規格道路ネットワークの未整備が観光阻害要因の一つであり、**広域的な観光を促す道路ネットワークの構築が課題**。



出典：第1回九州地方小委員会資料

図 3.3-2(4) 計画段階評価における地域の道路交通の現状と課題の整理状況

地域の課題（第1回地域の意見聴取結果）について

○調査目的

公共事業の効率性及びその実施過程の一層の向上を図るため、オープンハウス・ヒアリング調査を実施しました。

第1回では、地域の課題を解決するにあたり設定した政策目標・留意事項の妥当性についてお伺いしました。

○調査方法・調査期間・配布回収数

自治体・団体・企業へはヒアリングによるアンケート調査を、地域住民や広域的な道路利用者へはオープンハウス等によるアンケート調査を実施しました。

調査期間：令和4年2月24日（木）～令和4年4月30日（土）

対象	意見聴取方法	実施期間	対象の詳細	回収状況	
自治体	アンケート ヒアリング	令和4年2月25日（金） ～令和4年3月下旬	大分県、大分市、豊後大野市、竹田市	4自治体	
団体		令和4年3月中旬 ～令和4年4月30日（土）	バス協会、消防本部、農業協同組合、漁業協同組合、警察署、観光協会、商工会議所 等	30団体	全174票
企業			沿道自治体※ 製造業、運輸・郵便業、卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業、医療・福祉 等	132社	
			熊本県 製造業、運輸・郵便業 等	12社	
地域住民 ・ 広域的な 道路利用者	アンケート	令和4年3月下旬 ～令和4年4月30日（土）	計 約7,300戸 大分市：約6,300戸、豊後大野市：約600戸、 竹田市：約400戸	3,511票 はがき3,278票 WEB233票	全4,443票
	オープン ハウス	令和4年4月12日（火） 令和4年4月15日（金） 令和4年4月17日（日） 令和4年4月19日（火） 令和4年4月22日（金）	計 5箇所 〔平日（4箇所）〕大分市役所、大分市役所大南支所、 豊後大野市役所、竹田市役所 〔休日（1箇所）〕パークプレイス大分	581票 （うちWEB ：47票）	
	留置き	令和4年2月25日（金） ～令和4年4月30日（土）	計 7箇所 道の駅あさじ、道の駅原尻の滝、道の駅おおの、道の 駅みえ、道の駅きよかわ、道の駅竹田、道の駅すごう	74票	
	HP・市報等	令和4年2月24日（木） ～令和4年4月30日（土）	大分河川国道事務所HP、自治体HP、市報 等	277票 （WEB）	

出典：第2回九州地方小委員会資料

図 3.3-3(1) 地域の課題（第1回地域の意見聴取結果）について

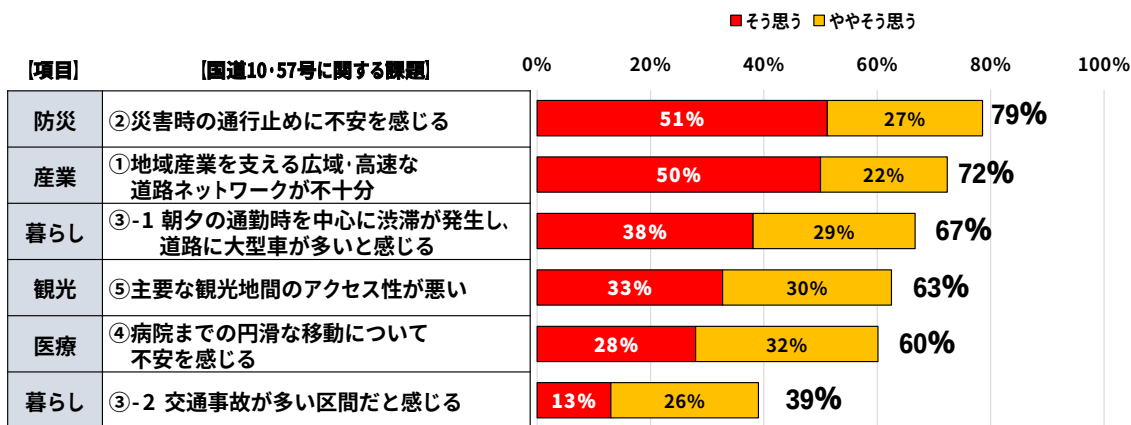
地域の課題（第1回地域の意見聴取結果）について

■団体・企業（アンケート・ヒアリング）

・「③-2.交通事故が多い区間だと感じる」を除く全ての項目について6割以上が『そう思う』『ややそう思う』と回答。
・特に「②災害時の通行止めに不安を感じる」「①地域産業を支える広域・高速な道路ネットワークが不十分」について課題意識が高く、7割以上の団体・企業が『そう思う』『ややそう思う』と回答。

【質問】国道10号・57号（大分市～豊後大野市間）に関する5つの課題（6項目）について、5段階のそれぞれ該当する箇所に一つだけ○を付けてください。【5段階評価】

【回答】団体・企業（アンケート・ヒアリング）：174票



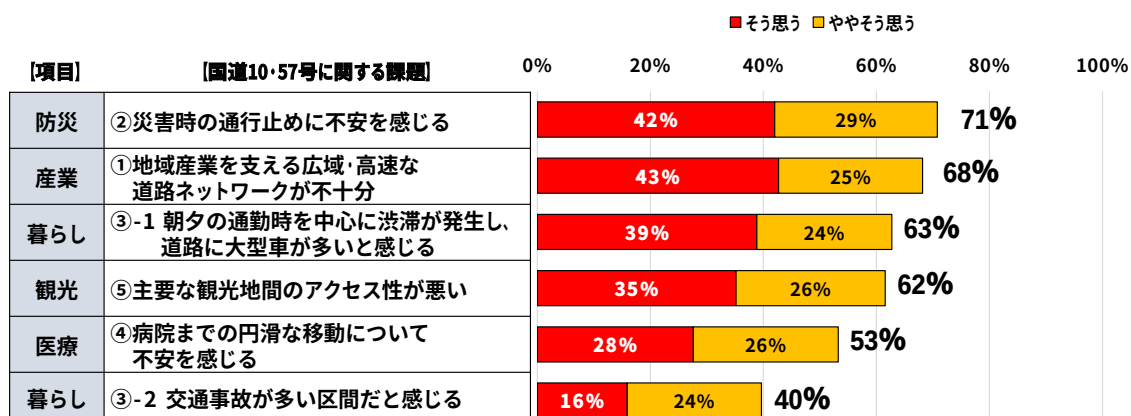
※小数点以下の処理により合計値と合わない場合がある (N=174)

■地域住民（住民アンケート・オープンハウス・留置き・その他）

・「③-2.交通事故が多い区間だと感じる」を除く全ての項目について半数以上が『そう思う』『ややそう思う』と回答。
・特に「②災害時の通行止めに不安を感じる」「①地域産業を支える広域・高速な道路ネットワークが不十分」について課題意識が高く、約7割が『そう思う』『ややそう思う』と回答。

【質問】国道10号・57号（大分市～豊後大野市間）に関する5つの課題（6項目）について、5段階のそれぞれ該当する箇所に一つだけ○を付けてください。【5段階評価】

【回答】地域住民（住民アンケート・オープンハウス・留置き・その他）：4,443票



※小数点以下の処理により合計値と合わない場合がある (N=4,443)

出典：第2回九州地方小委員会資料

図 3.3-3(2) 地域の課題（第1回地域の意見聴取結果）について

地域の課題（第1回地域の意見聴取結果）について

■その他の課題・自由意見

- ・その他の課題については、「高速ネットワークの不足」、「道路構造への不満」、「歩行者・自転車利用空間の安全性」等の意見が寄せられた。
- ・自由意見については、早期整備や整備による期待の意見が寄せられる中で、ルート選定や中間IC設置に関する意見も寄せられた。

【質問】5つの課題以外で、あなたが問題だと思うことがあれば具体的にお書きください。（意見数 774件）

- 国道10号、57号は九州の東西を結ぶ重要な路線であり、産業、観光を振興させるには早急な整備が必要である。
- 道路の起伏が激しく、登坂車線以外での渋滞もしばしば起こる。
- ☐ 中九州横断道路と東九州自動車道が接続していないため、高速道路網が形成されていない。
- ☐ 利便性が向上することで新規・継続居住が増えるといった過疎化への対策としても、高規格道路のネットワークは必要。
- ☐ 国道57号はカーブが多いと思う。運転しづらい道路な気がする。
- ☐ 歩道が狭い場所もあり、歩行者だけでなく自転車も危険だと感じる。

【質問】その他ご意見がありましたらお聞かせください。（意見数 776件）

- 大分（大在埠頭、佐賀関）と熊本、宮崎の物流を考えると道路整備は必要。
- 大分市内から中九州道へのアクセス道路の一つである坂ノ市中戸次線は土砂災害による道路寸断が考えられることから、宮河内方面と接続することで応援、受援時における利便性が向上する。
- ☐ 九州の道路ネットワーク整備の早期実現が重要。
- ☐ 企業活動的には宮河内ICへつながり、大在（大分港）へ接続されたほうが佐賀関への利便性もよくなり、大分の発展的にはメリットが大きいと考える。
- ☐ 大分～犬飼間はかなり距離があるので、利便性を高めるため、途中地点でもアクセスできるようにしてほしい。

■：団体・企業ヒアリング □：住民アンケート・オープンハウス・留置き・その他

■自治体

- ・県・沿線自治体からは、物流効率化、災害時の通行止め、観光地へのアクセス性に関する意見が寄せられた。

（主な意見）

自治体	主な意見
大分県	・大分港大在地区では新たなRORO船ターミナルなどの物流拠点整備と併せ、ポートセールスによる企業誘致など「九州の東の玄関口の拠点化」を進めており、大分県版地方創生を加速するためには、ミッシングリンクである「大分～犬飼」を整備し、高速道路と一体となった広域道路ネットワークを早期に構築することが必要不可欠である。 ・国道10号・国道57号は広域防災拠点と熊本県を結ぶ重要な緊急輸送道路であるが、これまでも豪雨災害時に通行止めがたびたび発生するなど、救助・救援活動に支障が生じた。そのため、南海トラフ地震等の大規模災害時の救助・救援活動のためにも、災害に強いネットワークの形成が喫緊の課題である。
大分市	・高規格道路の整備されている他市場への出荷により、本市場の集荷力が低下し、市場機能の低下（集荷・価格形成・分荷）が懸念されるため、道路ネットワークの構築が必須である。 ・大分市臨海部から南部方面へと向かう主要路線が国道10号しかないため、昼夜を通して産業用の交通と生活用の交通が常に混同しており、混雑も見られ、災害時に通行止めとなった場合には迂回路の確保も難しいと考えられる。 ・産業用の大型トラック等の通行が多いため、重大な交通事故発生リスクが高く、安全性の向上が必要であると考ええる。
豊後大野市	・国道10号においては、大分市上戸次の道路冠水が記憶に新しく、災害時には大分市方面からの物資の受入が出来なくなる、帰宅困難者が発生する等の懸念がある。国道57号においては、大規模地震が発生した際、道路崩壊や土砂災害による通行止めが予想される。 ・市民が大分市内の医療機関への受診傾向が高いため、道路整備は必要と感じる。また、災害が発生しDMATが災害支援に出動する際、道路冠水による通行止めにより活動に支障をきたす。 ・本市はジオパーク・エコパークといった自然を生かした観光資源に加え、サウナのまちとして観光振興に力を入れている。観光客は車で本市に来て頂く場合が多いが、大分市から規格の高い道路が繋がっていないことが観光客が増えない原因の一つであると考えている。
竹田市	・南海トラフ発生時は沿岸部の道路は使えなくなると想定すると、エネルギー、物資の輸送の面で中九州横断道路は重要視されるべき。 ・令和3年10月に豊後大野市内の病院の産科が廃止され、豊後地区には産科がなくなった。ほとんどが大分市内の病院へ行っている。産科に限らず病院へのアクセスがよくなると良い。 ・県外の観光客から「早く東九州道と接続すると便利で良いのだが」という声は多く聞く。また、四国からフェリーで大分へ～中九州横断道路を利用して熊本へという流れができるとかなり魅力的。

出典：第2回九州地方小委員会資料

図 3.3-3(3) 地域の課題（第1回地域の意見聴取結果）について

重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

■意見聴取期間

令和5年2月2日(木)～令和5年3月31日(金)

■意見聴取の実施状況

対象	意見聴取方法	実施期間	対象の詳細		回収状況	
自治体	アンケート ヒアリング	令和5年2月2日(木) ～令和5年3月中旬	大分県、大分市、豊後大野市、竹田市		4自治体	
団体		令和4年2月下旬 ～令和5年3月31日(金)	バス協会、消防本部、農業協同組合、漁業協同組合、警察署、観光協会、商工会議所 等		29団体	全173票
企業			沿道自治体※	製造業、運輸・郵便業、卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業、医療・福祉 等	129社	
			熊本県	製造業、運輸・郵便業 等	15社	
地域住民 、 広域的な 道路利用者	アンケート	令和5年2月下旬 ～令和5年3月31日(金)	計 約7,200戸 大分市:約6,400戸、豊後大野市:約500戸、 竹田市:約300戸		3,452票 はがき3,295票 WEB157票	全5,185票
	オープン ハウス	令和5年3月2日(木)、 3日(金)、5日(日)、 6日(月)、7日(火)	計 5箇所 [平日(4箇所)] 大分市役所、大分市役所大南支所、 豊後大野市役所、竹田市役所 [休日(1箇所)] パークプレイス大分		602票 (うちWEB:18票)	
	留置き	令和5年2月2日(木) ～令和5年3月31日(金)	計11箇所 道の駅あさじ、道の駅原尻の滝、道の駅おおの、道の 駅みえ、道の駅きよかわ、道の駅竹田、道の駅すごう、 大分市役所、豊後大野市役所、竹田市役所、臼杵市 役所		376票 (うちWEB:81票)	
	HP・市報等	令和5年2月2日(木) ～令和5年3月31日(金)	大分河川国道事務所HP、自治体HP、市報 等		755票 (WEB)	

※沿道自治体：大分市、豊後大野市、竹田市

出典：第3回九州地方小委員会資料

図 3.3-4(1) 重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

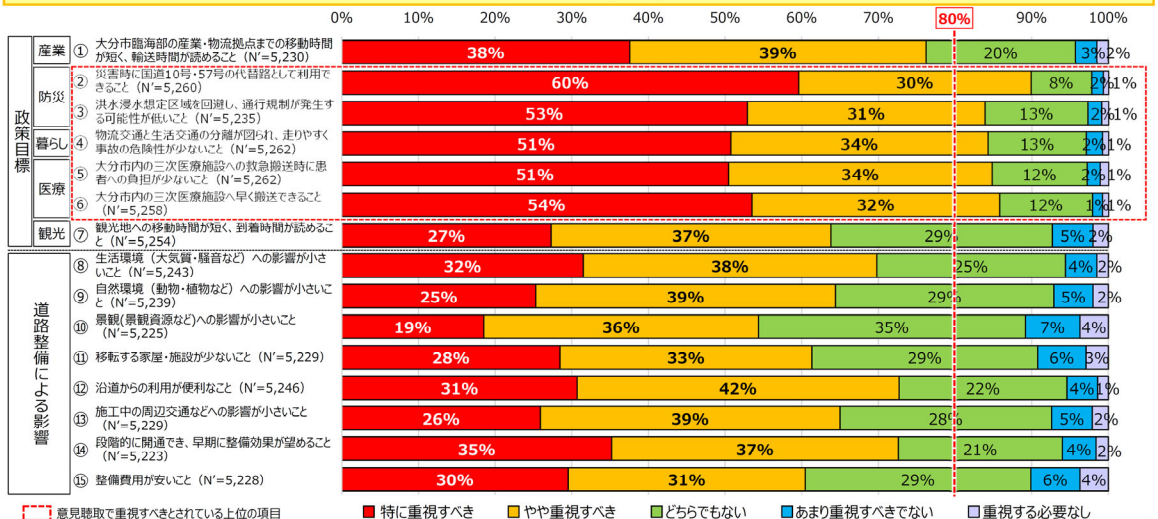
重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

○政策目標については、全ての項目で重視すべきとの意見が6割以上であった。

その中でも、「②災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること」「③洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと」「④物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと」「⑤大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと」「⑥大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること」について、重視すべきとの意見が8割以上と特に多かった。

○道路整備による影響については、「⑩景観（景観資源など）への影響が小さいこと」以外の全項目で重視すべきとの意見が6割以上であった。

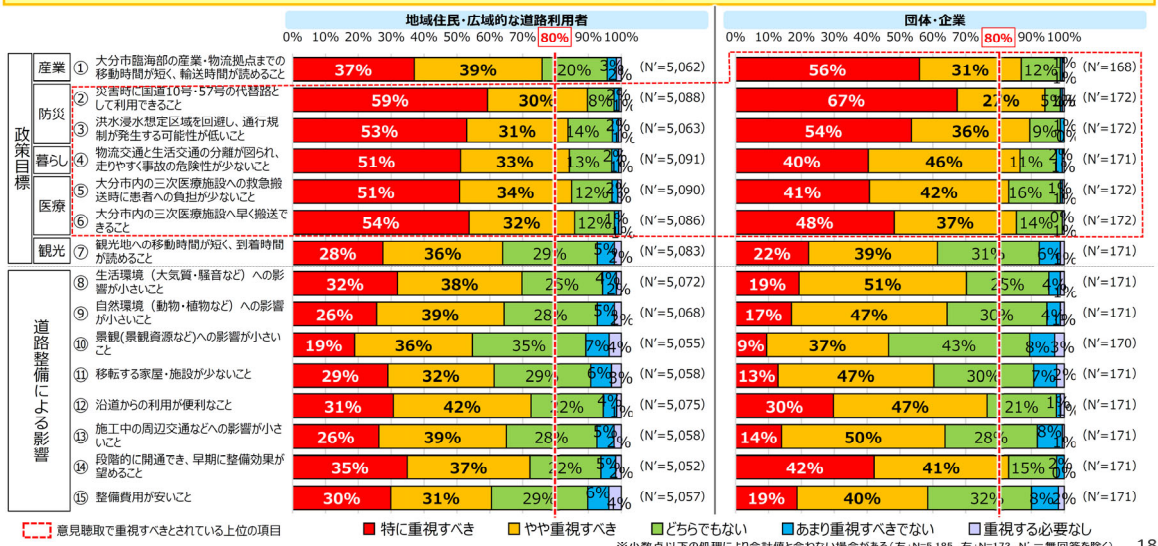
【質問】当該区間のルート帯等の検討に必要な「重視すべき事項（①～⑳）」について5段階で評価してください。



○政策目標については、地域住民・広域的な道路利用者、団体・企業ともに全ての項目で重視すべきとの意見が6割以上であった。

地域住民・広域的な道路利用者、団体・企業ともに「②災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること」「③洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと」「④物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと」「⑤大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと」「⑥大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること」について、また、団体・企業のうち「①大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること」について、重視すべきとの意見が8割以上と特に多かった。

【質問】当該区間のルート帯等の検討に必要な「重視すべき事項（①～⑳）」について5段階で評価してください。



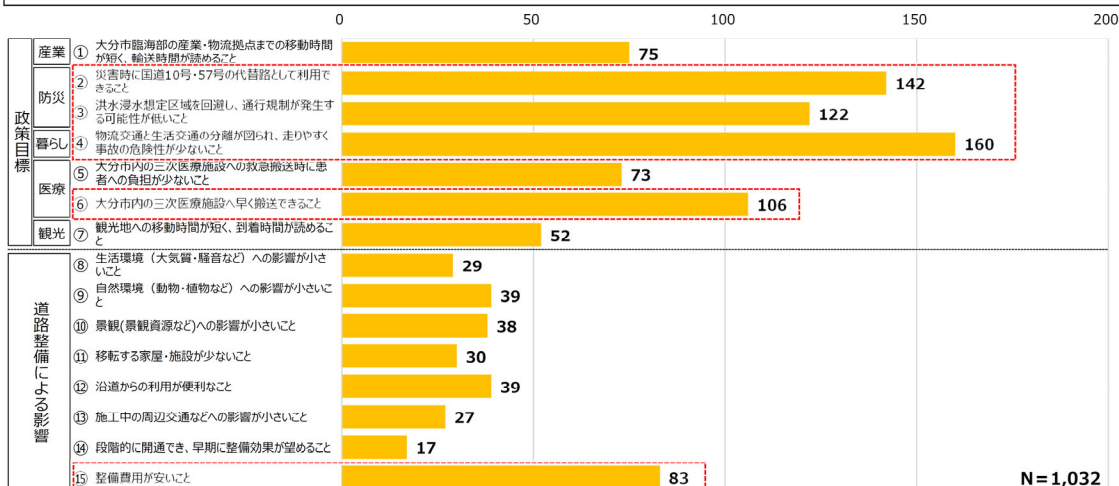
出典：第3回九州地方小委員会資料

図 3.3-4(2) 重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

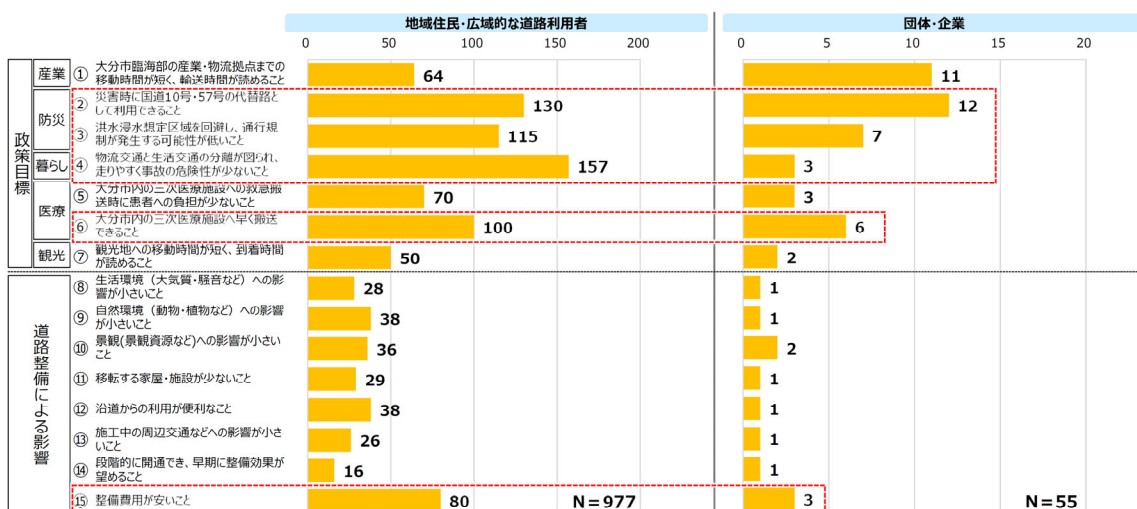
重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

■重視すべき事項（ルート帯について）に関する自由意見

○重視すべき事項（ルート帯について）の自由意見としては、1,032意見が寄せられた。
 ○政策目標については、「②災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること」「③洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと」「④物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと」「⑥大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること」に関する意見が多かった。
 ○道路整備による影響については、「⑮整備費用が安いこと」に関する意見が多かった。



■重視すべき事項（ルート帯について）に関する自由意見



出典：第3回九州地方小委員会資料

図 3.3-4(3) 重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

■重視すべき事項（ルート帯について）に関する自由意見

 意見聴取で重視すべきとされている上位の項目

重視すべき事項		自由意見
産業・防災・暮らし・医療・観光	① 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること	・熊本に半導体関連企業ができ、大分も九州の東の玄関口として整備を進めているところなので、物流面は最も重視すべき。（大分市/30代男性） ・中九州横断道路は、熊本から大分までの重要路線だと考えています。熊本には、大型のIT企業の立地が明らかになっており、大分にも既存のIT企業が集積していることから、このルートを通して、大分公共団体の物流拠点がさらに重要拠点となり、九州全体の経済活動を支えていくことが必要です。（大分市/60代男性） ・運送業の2024問題で、輸送時間を解決するためにも道路整備を迅速に行い、少しでも物流業者の負担を減らしてほしい。（大分市/30代男性） ・企業活動を継続させるため、安定した物流ルートの確保が重要。熊本方面に対して、有料高速を利用して良いルート・選択肢ができれば、物流企業としては助かる。（大分市/運輸業）
	② 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	・大地震や異常気象による災害に備え、代替路の確保を重視すべき。平時は物流や暮らしに配慮すべき。道路は1本でも多めに越したい。（大分市/60代男性） ・南海トラフ地震の発生が心配される中、被災時の避難、またそのあとの復興を早期に達成するためには、災害に強く、交通のリダンダンシーとなる高規格道路を整備する必要性を強く感じる。（大分市/60代男性） ・災害時の物資輸送のためにも複数の選択肢を持つことが重要だと思います。特に大分は地形上、代替道路が少ないのが弱点です。大きな災害が予想される昨今です。よろしく願います。（大分市/50代男性） ・選択する道路が、実質一つである。その他の道は、狭かったり、危険が伴うので、不便である。複数ルートの選択は、災害時の代替えにもなり、安心につながる。（大分市/40代男性） ・大分～犬飼間は国道10号しかないため、災害時の代替路としての機能が最も重要と考える。（豊後大野市/団体） ・災害などの緊急時の搬送や物流においてスムーズに早急に対応してほしいと考えるため。いつ起こるか分からない事態に十分な備えを。（豊後大野市/団体）
	③ 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	・大野川流域であるので、洪水や流水を回避することが重要。（大分市/60代女性） ・大野川の川底を綺麗したり堤防を強くしたり、大雨に対しての準備をしてくれているものの、最近の雨は思いがけないほど強く、人間の想定をはるかに超えてくることが多いです。なので、方角、氾濫しても安全で安心して通行できる道路をつくってほしい。（大分市/30代男性） ・近年の集中豪雨を考慮すれば、浸水リスクが低い、かつ土砂災害に強いルートを優先すべきではないか。（大分市/30代男性） ・戸次地区は、特に洪水等発生する可能性が大きいため、通行止めがでないようにするべき。（大分市/70代以上男性） ・災害に強いルートを作してほしい。戸次付近は大雨による冠水被害のイメージがある。（大分市/運輸業） ・災害発生時の交通規制により配送困難事業が多数発生し、物を届けられないこと及び届けられなかった荷物が滞り、その後の復旧に時間がかかることが問題であるため、災害について強く配慮いただきたい。（大分市/運輸業）
	④ 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	・大分～犬飼間の高速がつかげれば下道の渋滞緩和にもつながるし、交通量も減るので早急につけてほしい。（大分市/30代女性） ・中村交差点では大型車による渋滞が発生しており、県道も狭いので危ない。地域住民としては、大型車を分離できるようなルートを整備してほしい。（豊後大野市/70代以上女性） ・現道を運転している、トラックにあおられることがあるので、分離できるとありがたい。（竹田市/60代女性） ・時間とガソリンの節約のため、短時間で走行できるルートを選んで欲しい。（大分市/60代男性） ・生活交通と物流交通が混在しているので、早朝、夕刻など通行量が増える時間帯は目的地への到着予定時刻が読めないことが問題。2つの交通を分離させ、物流輸送時間を短縮することが求められる。（大分市/卸売・小売業）
	⑤ 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	・高齢者の多い地域なので、救急対応に特に重視すべきと思う。早期着工を求める。（大分市/50代女性） ・命に関わることで重視すべき。（大分市/60代女性） ・カーブや信号は患者の負担になるため、できるだけまっすぐな道がよい。（竹田市/60代男性） ・信号や交差点を回避できれば、加減速や追い越し時の急激なハンドル操作がなく、安定した走行が可能となる。また、患者の容体への影響を軽減でき、搬送中の事故や隊員の負担も解消できる。（豊後大野市/団体）

■重視すべき事項（ルート帯について）に関する自由意見

重視すべき事項		自由意見
道路整備による影響	⑧ 生活環境（大気質・騒音など）への影響が小さいこと	・周辺の集落には騒音が少ないように配慮して頂きたい。（大分市/60代女性） ・なるべく人家の少ないところを迂回し、付近の住民に騒音の被害が出ないようにしてほしい。（大分市/60代男性） ・沿線で、車の振動をひどく感じる事が無いようにするべきだ。（臼杵市/20代女性）
	⑨ 自然環境（動物・植物など）への影響が小さいこと	・人目線で道路を作っていますが、そこに住む野生動物のことも考えた上で、ロードキル問題を少なくしてもらいたい。人間だけの道ではない。（豊後大野市/40代女性） ・利便性が向上するのはよいことだが、自然環境に十分配慮してほしい。（大分市/70代以上女性） ・自然環境への影響を極力抑えた計画にするべき。（臼杵市/40代男性）
	⑩ 景観（景観資源など）への影響が小さいこと	・自然豊かな所も素敵な場所でそこが魅力と思う。便利さももちろん大切だが、自然保護景観も大切にしたい。（大分市/50代女性） ・山側の景観は大事にしてほしい。（竹田市/60代男性） ・環境や景観資源などの配慮は重要であると考えます。（臼杵市/40代女性）
	⑪ 移転する家屋・施設が少ないこと	・早期完成を考えれば、移転補償が少ない方がいいと思います。（臼杵市/50代男性） ・整備費が抑えられても、移転補償費が増大することも懸念されるので、極力移転が生じないルートが望ましいと考える。（大分市/30代男性） ・宮内～犬飼まで、できるだけ人家の立ち退き等を避けて用地問題を少なくし、早く開通してほしい。（大分市/70代以上男性）
	⑫ 沿道からの利用が便利なこと	・周辺自治体からの沿道アクセスを考慮したルート帯やインターチェンジの位置決定をお願いします。（大分市/30代男性） ・幹線道路や乗り降りすべきところ、乗り降りできると便利なところに接続されるとよい。（竹田市/40代男性） ・沿道からの出入りが自由にてき方がよい。（竹田市/70代以上男性）
	⑬ 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	・工事中の規制によって周辺道路が混雑すると困る。（大分市/50代女性） ・施工中も既存の国道10号を今と同じように使い続けられるようにしてほしい。（豊後大野市/60代男性） ・開通後に便利になることを考えれば工事中の影響は多少は仕方ない。（竹田市/60代女性）
	⑭ 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・部分的にでも開通して早く利用できるほうが利用者にとってはうれしい。（大分市/20代男性） ・小さい効果が少しずつとも、ある程度効果が出る区間で開通する方がよい。（竹田市/30代女性） ・段階的でもいいので、早く開通して欲しい。生きている間にも整備して欲しい。（竹田市/60代男性）
	⑮ 整備費用が安いこと	・税金はなるべく安く使ってほしい。（大分市/30代男性） ・効果を確保したうえでなるべく安いものがよい。（大分市/60代女性） ・建設後の維持、管理費の負担を少なくするよう計画をお願いします。（大分市/50代男性）

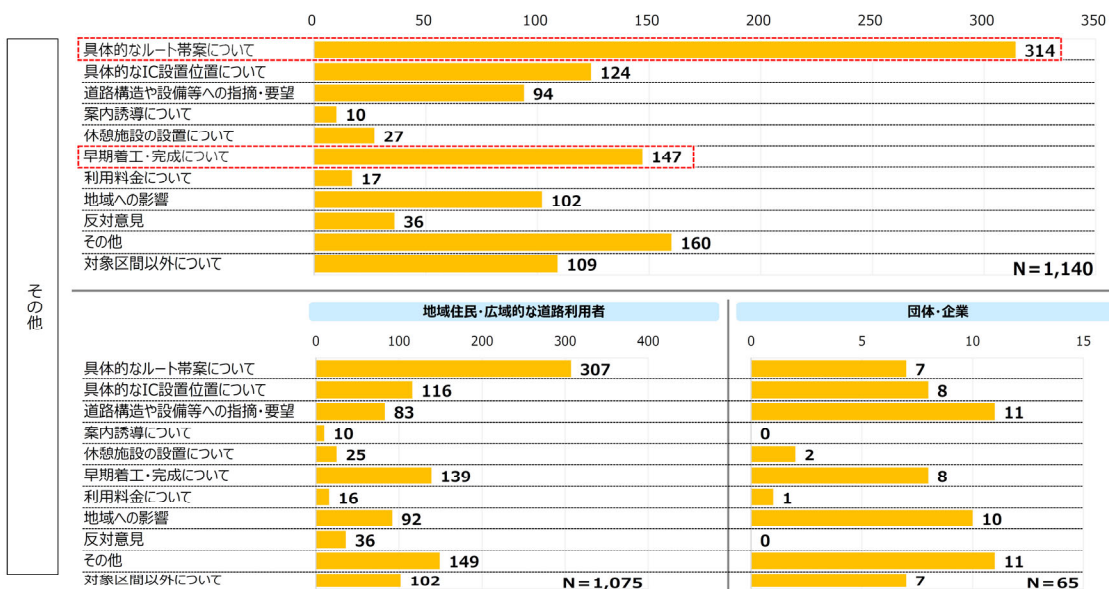
出典：第3回九州地方小委員会資料

図 3.3-4(4) 重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

■重視すべき事項以外の自由意見

○重視すべき事項以外の自由意見としては、1,140意見が寄せられ、「具体的なルート帯案について」「早期着工・完成について」に関する意見が多かった。



■重視すべき事項以外の自由意見

その他	自由意見
具体的なルート帯案について	・ルート帯については既存の住宅、施設等に支障の少ない条件をクリアすべきで保障費に予算をかけない工夫が必要。案①山側ルートが自然環境保全には最大限工夫してほしい。早期実現には案①山側ルートがベスト。(大分市/60代男性) ・洪水浸水想定区域を回避し、災害時に安全走行できる案①山側ルートが良いと思います。(大分市/50代女性) ・案②平地ルートを希望する。一般道よりアクセスしやすい。(大分市/60代女性) ・案③を希望します。費用が安いことが最重要。案①②は完成時期が遅くなるためNG。(大分市/70代男性)
具体的なIC設置位置について	・中判田の国道10号及び10号バイパスへのアクセスができるようインターの設置をお願いしたい。(竹田市/60代男性) ・吉野に住んでいるので、インターチェンジが近くできると嬉しいです。(大分市/20代男性) ・犬飼～宮内間の中間地点である戸次地区にインターチェンジがあると利便性がよい。(大分市/60代男性) ・物流面で臼杵・八幡浜利用者が便利ように、臼杵に近いところにインターチェンジを作っていただきたい。(臼杵市/60代男性)
道路構造や設備等への指摘・要望	・道路幅員は広めで片側一車線通行はやめてほしい。最低でも二車線通行として追い越し車線を作るべき。(大分市/50代女性) ・渋滞をさけるために必ず2車線が必要かつ重要。インターチェンジは合流しやすく施工すべき。年配者などが判別しやすく、変則的なつくりは避けるべき。(大分市/40代男性) ・できるだけカーブが少なく、短時間で移動できること。登坂車線を数か所設けてほしい。(豊後大野市/60代男性)
案内誘導について	・インターチェンジ周辺の状況が分かりやすく乗り降りに不安がないこと。(大分市/20代男性) ・観光地への分かりやすい案内。(大分市/50代女性) ・使用頻度が低いので、わかりやすくお願いします。(大分市/30代女性)
休憩施設の設置について	・道の駅を増やして頂きたいです。(大分市/50代女性) ・サービスエリアを1～2か所作っていただきたい。(豊後大野市/70代以上女性) ・途中に休憩施設がないと不便なので、道路を作るときはそこも考慮してほしい。(大分市/70代以上女性)
早期着工・完成について	・熊本まで早く着工完成してほしい。(豊後大野市/70代以上男性) ・防災、医療、暮らしの面で早期に必要なと思います。全面開通してください。(大分市/50代女性) ・何事もスムーズに円滑にできるように、早めの完成を願っています。(大分市/70代以上女性) ・現状、戸次～大飼間は高速で走行する車が多く危険なため早期着工を希望します。(竹田市/50代女性)
利用料金について	・今までどおり無料で通行できるなら利用するが、料金がかかるなら結局他の道で渋滞してしまうと思う。(大分市/50代女性) ・高速利用料金が安いことが利用者にとって一番重要なこと。(大分市/40代男性) ・現在開通している区間は地元民の生活道路として定着しているため、全線開通になった際には料金等どうなるのかはきりきざせしてほしい。できるとなら今のまま生活道路として料金がからず利用したい。(豊後大野市/30代女性)
地域への影響	・竹田市は企業がないことが問題になっている。企業誘致に役立てる道路になってほしい。(竹田市/30代男性) ・別ルートだと既存地域の過疎化が進む心配あり。(大分市/70代以上男性) ・中九州横断道路周辺にお店が少ないので、地域活性化や少子高齢化防止の観点から、特産品や郷土料理などのお店があれば良いと思う。(大分市/30代女性)
反対意見	・現状あまり混雑を感じることもないので、自然保護、予算の有効利用を重視すべきと思う。(大分市/40代男性) ・豊かな自然を壊して、高速道路を建設するのは反対です。田舎の静かな暮らしを破壊しないで欲しい。動植物への影響を軽視しないで欲しい。(大分市/60代女性)
その他	・特に、近隣地区住民の意見を反映しながら推進していただきたい。(大分市/70代以上男性) ・産業、物流の安定輸送も大切ですが、交通弱者、歩行者や自転車の通行に十分配慮した道路づくりが大切だと思います。(大分市/60代男性) ・地域高規格道路の効果や必要性は理解できるが、整備後の維持管理体制も計画段階で考慮すべき。(大分県中津市/60代男性)
対象区間以外について	・高速を作るなら最低2車線にしてほしい。新しい道より既存の高速を先に2車線にしてほしい。(大分市/20代男性) ・熊本県への時間短縮を期待しています。熊本県側の中九州横断道路の開通にもっと関心をもってもらいたい。(大分市/50代男性) ・国道10号、大分市大学前から中判田まで2車線工事を早急に対応する方がよい。(大分市/60代女性)

出典：第3回九州地方小委員会資料

図 3.3-4(5) 重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

自治体への意見聴取結果

■大分県

重視すべき事項		意見
政策目標	産業①	・熊本を中心とした円滑で強靱な半導体サプライチェーンの構築には、大分臨海部の半導体関連企業群との移動時間の短縮や災害時でも安定的な輸送の確保が必須である。大分県版地元創生を加速するためには、山側ルートによる安定的な定時性・速達性の確保が必要である。
	防災②	・国道10号・57号（緊急輸送道路）の代替路を確保し、救助・救援活動を支えるほか、サプライチェーンの断絶による産業面への影響を最小限に抑える必要がある。そのためにも、災害リスクが低い別線整備が有効と考える。
	防災③	・災害時における物資や人員の輸送を円滑に進めるために、通行規制を最小限に抑え、災害に強いネットワークの構築が必要である。そのためにも、浸水想定区域を回避する山側ルートでの整備が望ましい。
	暮らし④	・中村文差点付近では慢性的な渋滞や追突事故が発生しており、交通事故が発生しにくいルート帯を選定することが重要である。さらに、物流交通と生活交通の分離は渋滞緩和や安全性の向上につながることから、別線整備が望ましい。
	医療⑤	・救急患者の救命率向上や予後の改善を図るためには、早急に医療機関へ搬送する必要がある。そのためには、救急車の停止や減速を回避する別線整備が望ましい。
	医療⑥	・急性期には早急に適正な診断を開始することが救命率の向上や予後の改善につながるため、30分圏域外の地域から三次救急医療機関までの速達性向上や三次医療施設30分圏域人口の拡大が最も見込まれる山側ルートが望ましい。
	観光⑦	・速達性・定時性の向上は、新たなツアー造成等により各観光地への周遊促進につながるから、効果の高い別線整備が望ましい。
	⑧	・自動車走行に伴う騒音は周辺に影響を与えることから、住居・病院・福祉施設等に配慮したルート帯の検討が必要であり、影響の程度が最も小さい山側ルートが望ましい。
	⑨	・対象区間には希少な動植物の種が生息又は生育している可能性があり、特に平地ルート及び現道拡幅付近には、重要な動植物種の生息地及び重要な植物種・群落の生育地が点在している。可能な限り自然環境への影響の回避・低減を図るため、環境影響評価の結果を勘案して適切に判断して頂きたい。
	⑩	・平地ルート及び現道拡幅には、大分市景観計画において重要地区に設定された歴史的なまちなみの残る戸次本町、一般河川の大河川や神社仏閣など多くの景観資源が存在する。これらの景観資源への影響を回避した山側ルートが望ましいが、観光名所の吉野梅園に配慮した検討が必要である。
	⑪	・用地交渉の難航や補償物件移転の遅れにより、事業進捗の遅延が懸念される。地域住民の負担を軽減し、着実に事業を展開するためにも、移転等が少ない山側ルートが望ましい。
	⑫	・沿道からのアクセス性が高い現道拡幅よりも、定時性・速達性が高い別線整備とし、中間ICを設置して沿道からのアクセス性を確保して頂きたい。
	⑬	・国道10号は交通量が約28,000台/日と県内でも交通量が多く、大型車混入率も高い幹線道路である。産業・生活・医療・観光への影響を考慮し、施工に伴う現道への影響は可能な限り抑制すべきである。
	⑭	・計画延長が約20kmと長いことから、整備効果を発現するためにも段階的な開通が必要であり、そのために中間ICの整備を望む。
位置等に関する意見	⑮	・政策目標を達成するために最適なルートを選定した上で、より経済的な構造を検討するなど、コスト削減が図られることを望む。
	⑯	・中間ICは臼杵市が整備を進めている野津東部工業用地や四国方面へのフェリー航路がある臼杵港へのアクセス性を考慮した位置が望ましい。
	⑰	・一方、大分宮河内ICへの接続はIC直結構造とするとともに、九州の東の玄関口としての拠点化戦略において物流基幹拠点と位置づけている大分港大地区、臨海工業地域や半導体関連企業群、大分流通業務団地などのアクセス性を考慮して一般道への接続も希望する。
	⑱	・集落からのアクセス性向上により地域間交流が生まれ、地域の活性化にもつながる。また、移動時間短縮により通勤可能エリアが拡大し、移住・定住が期待される。
	⑲	・急性期には、早急に適切な診療を開始することが救命率の向上や予後の改善に繋がるため、30分圏域の拡大や医療機関までのアクセス性等、地域の実情を踏まえた配置が望ましい。
	⑳	・臼杵市仏仏や臼杵城下町などの観光施設へのアクセス性が向上する位置が望ましいが、主要道路からのアクセス性や利便性向上などの配慮も必要である。
	㉑	・浸水想定区域など災害リスクのある場所を避け、周辺道路からのアクセス性が優れ、円滑な物資・人員の広域輸送が可能な位置が望ましい。
	㉒	・また、大分宮河内IC付近への接続は、広域防災拠点である大分スポーツ公園へのアクセス性を考慮して頂きたい。
	㉓	・熊本県菊陽町へのTSMC進出を契機に、半導体関連企業の設備投資増強や新規拠点進出が活発化している。本県でも、県内に集積する半導体関連産業や中九州横断道路を強めとして、企業誘致に取り組んでいる。しかし、事業区間も含めて中九州横断道路の整備期間が示されていないことから、進出を断念した企業もある。今後の県勢発展のためにも、できるだけ早い段階に概ねの整備期間が示されることが重要と考える。
	㉔	・また、早期に事業効果が現れられるためにも事業遅延リスクが小さいルート選定も重要である。
その他のご意見		

自治体への意見聴取結果

■大分市

重視すべき事項		意見
政策目標	産業①	・九州の東の玄関口としての本市の優位性を生かし、更なる商工業振興を図るため、基幹拠点化・RORO船ターミナルの整備が進む大分港大地区や大分流通業務団地、その他多数の進出企業等が立地する東部地域のアクセス性の向上は重要である。さらに、世界的半導体メーカーの熊本進出を受け、半導体産業のさらなる集積と産業全体への波及・浸透が予測され、大分市臨海部にアクセスしやすい道路体系が今後さらに必要性を増すと考えられる。
	防災②	・災害により国道10号・57号の通行ができなくなると想定すると、別線の道路整備により緊急輸送等が可能となることから、ダブルネットワークの確保は重要である。
	防災③	・災害時の多量性・代替性を考慮した広域的な連携に資する道路体系の整備を促進しているため、重視すべき項目である。
	暮らし④	・国道10号戸次付近は交通量が多く、通行規制の影響が大きいため、災害時にも命を救う道として安心・安全に利用できるよう、被災や通行規制の発生リスクが低いルートの確保が必要である。
	暮らし⑤	・物流交通と生活交通の分離により、交通渋滞を解消し、事業者の輸送や市民の移動等の効率化を図るとともに、産業用の大型トラック等による重大な交通事故発生リスクを抑え、安全性の向上を図る必要がある。
	医療⑥	・自動車専用道路とすることにより、搬送時の加減速の頻度減少に寄与し、患者の負担軽減となることが望ましい。
	医療⑦	・大分市内においても三次医療施設の30分圏域外となっている地域もある。人命救助と経過時間の関係からも三次医療施設への到着時間の短縮や30分圏域の拡大は重要であり、地域の医療サービスの向上に寄与することが期待される。
	観光⑧	・観光地への移動時間が短く、到着時間が読めることにより、観光地の周遊、滞在時間の増加などが可能となり、観光客、交流人口の増加に寄与する。
	⑨	・観光バス等の速達性・定時性が向上することで、観光客のバス等への信頼性が向上し、利用客の増加による地域の活性化等が期待される。
	⑩	・自動車の通過交通による排気ガスや騒音については、沿線住民への配慮が必要であり、可能な限り影響する住民が少ないことが望ましい。
	⑪	・可能な限り、貴重な地形・地質や動植物の生息・生育場所などの保全に配慮することが必要である。
	⑫	・中九州横断道路ルート案沿いには、戸次本町地区に国登録の帆足本家住宅や指定の酒造蔵や果指定の楠木生石造五重塔、中世の薩摩車の豊後侵入に際し戦いの場となった戸次河原周辺の櫓ヶ城、鏡城、梨尾山など保存すべき史跡が多数あるため、景観に対する影響を最小限にする必要がある。
	⑬	・現在住んでいる方の意向を汲みだうえで慎重に進めるべきと考えるが、可能な限り影響する家屋等が少ないことが望ましい。
	⑭	・沿道の集落や地域にきわい創出、また新規道路の利用頻度を増加させるためにも、起終点だけでなく、沿道からのアクセス性向上を図る中間ICの設置が望ましい。
	⑮	・現道である国道10号や57号の施工については、交通量が多いことから、施工時の交通規制等に起因する問題（交通渋滞等）も発生することが想定されるため、生活道路内の交通に影響が小さい別線整備が望ましい。
位置等に関する意見	⑯	・大分～犬飼IC間の延長は長く、全線開通までの時間を要することから、道路整備効果を早期に発揮させるためにも、段階的な供用開始が望ましい。
	⑰	・整備に係るコストも重要であるが、整備後の効果が最大限に発揮されるルートが望ましい。整備効果が十分に図られたうえで、コスト削減を図るべきである。
	⑱	・地域産業や物流施設にむけて、広域道路へのアクセスや利便性が高いとは、地元や大分市における産業の活性化においても重要である。インターチェンジができることで、その周辺の土地の開発等が期待されることから、その可能性が高い山間部にインターチェンジがあることが望ましい。
	⑲	・現在、大分市中心部と熊本方面に繋がる国道10号や57号から離れた位置にある集落（吉野地区等）により近い位置にインターチェンジができることで、大南地区内などの位置からでも大分市や熊本方面へのアクセスが容易になるところが期待できる。
	⑳	・大分市内においても三次医療施設の30分圏域外となっている地域もある。人命救助と経過時間の関係からも三次医療施設への時間短縮や30分圏域の拡大は重要である。
	㉑	・大分市指定有形文化財である帆足本家酒造蔵等が立地する戸次本町地区や、吉野梅園のある吉野地区へのアクセスに配慮すべき。
	㉒	・吉野地区は緊急輸送道路である国道10号・57号から離れていることから、緊急時や災害時において吉野地区へのアクセスが容易な位置へインターチェンジを設置することが望ましい。
	㉓	・中九州横断道路と豊予海峡ルートを含めた道路ネットワーク構築が、九州・四国・中国を結ぶ基幹的な交通ネットワークの形成に繋がり、地方拠点の形成や災害時のリダンダンシ効果も増すと考えられる。
	㉔	
	㉕	
その他のご意見		

出典：第3回九州地方小委員会資料

図 3.3-4(6) 重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について

自治体への意見聴取結果

■豊後大野市

重視すべき事項			意見
政策目標	産業・防災・暮らし・医療・観光	① 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること	・豊後大野市における企業誘致には必須であり、既存の製造業や流通業においても輸送時間の短縮や輸送コスト削減は重要である。
		② 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	・地域産業の振興・発展に欠かせない物流拠点へのアクセス及び移動短縮が図られる道路整備を望む。
		③ 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	・県部である大分市から救助や支援のルートを確認することが豊後大野市にとって重要と考える。
		④ 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	・冠水による通行規制を軽減しており、交通量の多い国道10号・57号線の代替道路としての別線整備が望ましい。
		⑤ 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	・冠水による通行規制を軽減しているため、洪水浸水想定区域内ルートは避け、安全・安心して利用できる道路整備が必要。また、近年の異常降雨等による斜面崩壊対策を行うことが望ましい。現在の緊急輸送道路は浸水想定区域を通過するため案①での整備が望ましい。
		⑥ 大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること	・日常の生活交通道路と物流交通道路の区別化が図られれば渋滞緩和に繋がり、安全性・走行性の向上が期待できる。
		⑦ 観光地への移動時間が短く、到着時間が読めること	・すべてを分離すると利便性の向上にならないため、生活道路からの乗り入れにも配慮する必要がある。
	道路整備による影響	⑧ 生活環境（大気質・騒音など）への影響が小さいこと	・生活交通との切り離しにより、救急搬送車両の加減速、速度変化が少なくなることと期待。
		⑨ 自然環境（動物・植物など）への影響が小さいこと	・交差点の少ないルート計画とし、到達時間の短縮を図ることが望ましい。
		⑩ 景観（景観資源など）への影響が小さいこと	・速達性の向上により、三次医療施設の到達エリア拡大を期待。
		⑪ 移転する家屋・施設が少ないこと	・県外からの本市へ観光客を呼び込むため、東九州自動車道とのアクセスが重要となる。東九州自動車道からなるべく短時間で到着できるようにすべき。
		⑫ 沿道からの利用が便利なこと	・地域住民への騒音・振動等の影響が最小限となるように配慮すべき。
		⑬ 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	・環境影響調査を行い、絶滅危惧種への悪影響を低減する対策を講じることが望ましい。森林伐採等も極力抑えることが望ましい。
		⑭ 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・国道・県・市町村の指定文化財を避けるルート計画とすることが望ましい。
		⑮ 整備費用が安いこと	・なるべく山間部を通過し、地域住民の日常を変えないようにすべきである。
インターチェンジの位置等について	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	・沿道からの利用が便利なこと	・生活道路と区別することが望ましいため、沿道からのアクセス性については必要以上に考慮することはないのではないか。
	⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	⑭ 段落的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・可能な限り地域住民の生活や経済活動に支障がないようなルートを施工するべきである。
	⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	⑮ 整備費用が安いこと	・交通量の多い幹線道路であるため、通行止めを伴う整備計画は極力避けるべき。
	⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	・沿道の渋滞回避等のためにも、工事が完了した区間（IC間）から段階的に供用開始することが望ましい。
	⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること	⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	・コスト削減も重要であるが、効果面を最重要視しない、せがかり公費を投入しても地域の発展に寄与しない。整備費用が安価なことに超したことはないが、本案件においてはコストよりも効果面・利便性を重視した方がよい。また、維持管理を考慮したライフサイクルコストも重視することが望ましい。
	その他のご意見	⑱ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	・地域の産業振興・発展に寄与できるよう、周辺の産業・物流施設からアクセスしやすい位置に計画することが望ましい。

自治体への意見聴取結果

■竹田市

重視すべき事項			意見
政策目標	産業・防災・暮らし・医療・観光	① 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること	・卸売市場が大分市街地にあるため、大分市中心部への移動時間が短縮することが望ましい。
		② 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	・熊本地震の際は、国道57号が物流の主要なルートとなっていた。今後の南海トラフ地震発生時等を考えても、沿岸部と熊本方面が高規格道路でつながっていることは重要である。
		③ 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	・災害時の応援の際には中九州横断道路が必要となることから、浸水想定区域を回避するルートが望ましい。
		④ 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	・南海トラフ地震発生時の津波を想定した場合に、浸水想定区域を回避するルートが必要。
		⑤ 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	・国道10号から県道38号への狭い道を利用する大型車が多いため、物流交通と生活交通が分離できると良い。
		⑥ 大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること	・救急搬送時にはカーブや路面の凹凸、信号が少ないほうが良い。
		⑦ 観光地への移動時間が短く、到着時間が読めること	・救急搬送の面においては迂回するルートである時間的メリットがないので、大分市中心部の病院（アルメイダ病院、大分県立病院、大分三愛メディカルセンター等）まで少しでも時間短縮することを望む。
	道路整備による影響	⑧ 生活環境（大気質・騒音など）への影響が小さいこと	・周遊ツアー等を組む際に時間が読めることは重要である。
		⑨ 自然環境（動物・植物など）への影響が小さいこと	・高規格道路ルートと現道ルートの選択肢を設けて利用者が使い分けできると良い。
		⑩ 景観（景観資源など）への影響が小さいこと	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。
		⑪ 移転する家屋・施設が少ないこと	・竹田方面では本線に猪が出没する事例もあり、山を切り崩した場合の動物への影響が懸念される。
		⑫ 沿道からの利用が便利なこと	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。
		⑬ 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。
		⑭ 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。
		⑮ 整備費用が安いこと	・段階的に早期に開通することも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。
インターチェンジの位置等について	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	⑮ 整備費用が安いこと	・整備費用よりは効果を重視する。
	⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	・整備費用は重視するが、山側ルートであれば移転等にかかる費用も少なく済むため大きな影響はないと考える。
	⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	・特になし。
	⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	・買い物に行く際、大分市中心部へのアクセスを考えると、中間ICは戸次周辺に設置し、本線から現道の国道10号や国道57号へアクセスしやすいことが望ましい。
	⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること	⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	・竹田市内には産婦人科がないため、そういった専門の医療機関へのアクセスが良くなることが重要と考える。
	その他のご意見	⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること	・特になし。

出典：第3回九州地方小委員会資料

図 3.3-4(7) 重視すべき事項（第2回地域の意見聴取結果）について